KDKニュース

KDK三つの原則
1．開拓伝道であること
2．教会を建てあげること
3．聖書信仰に立つ、教団、教派との協力

国内開拓伝道会
発行人　中島秀一
〒352-0011
埼玉県新座市野火止4の8の28
電　話 048-202-1500
ＦＡＸ 048-202-1501
振替 00140-6-57493
No.130　2021年12月

「なぜ、教会増殖なのか」

ＫＤＫ委員　大橋　富男

「二人はこの町で福音を宣べ伝え、多くの人々を弟子としてから、…弟子たちの心を強め、信仰にしっかりととどまるように勧めて、…また、彼らのために教会ごとに長老たちを選び、断食して祈った後、彼らをその信じている主にゆだねた。」

（使徒の働き十四：二十一～二十三）

パウロの第一次伝道旅行を注意して調べてみると、その戦略には少なくとも三つの核となる要素が見られます。第一に、パウロはどこでも行った先々で福音を宣べ伝えました。第二に、パウロは信じた人々を集め、新しい教会を建て上げました。第三に、教会ごとに長老たちを任命しました。このやり方は、パウロの伝道のすべてに首尾一貫していたことです。

問題は、このパウロのやり方は今日の宣教戦略において倣う必要があるのかということです。特に日本のようにクリスチャンが少ない国においては新しく教会を開拓するよりも、今ある教会を大きくする方が効率的ではないかという考え方もあります。いっその事、オンライン教会を始めたらどうかという声も聞かれます。その方がコストもかからないし、集まりやすい…と。皆さんはどう思われますか？

確かにコストや人材的な面を考えると新しく教会を開拓するよりも今ある教会を大きくする方が効率的かもしれません。しかしこのパウロのやり方、すなわち、地区教会を増やすことで福音を世界に広めていくことこそ、古くて新しい普遍的な神の宣教戦略なのです。なぜなら、これこそキリストのご自身の教会に対するご計画であったからです。キリストの大宣教命令は、本質的に世界規模で教会を増やしていくことです。まだ知られていないところに福音を宣べ伝え、新しい信者たちを中心に教会を建て上げ、それらの教会を訓練されたリーダーたちにゆだねることは、あらゆる文化、あらゆる時代の、教会の本質的要素なのです。

一九五三年に、ジャパン・アドベント・クリスチャン・ミッションの宣教師として来日したニール・ブラウン師は、鳥取県米子市や兵庫県西宮市で宣教に従事し、帰国する一九七一年までに八つの教会を開拓しました。ブラウン師は、世界各地での教会成長を調査する中で、教会の数が増えれば教会員も増加するという原則を見出し、それを日本の宣教に適用しようとしましたが、三つの問題に直面しました。第一に、教会を開拓するためには牧師が必要だが、按手礼を受けた牧師を見付けることは困難である。第二に、たとえ牧師がいたとしても、その牧師を支えるだけの回心者を獲得することは困難である。第三に、教会堂の問題です。

そこでブラウン師は、地区教会が別に新しい教会を生み出していくために、効果的な方法を考えました。それが「信徒の動員」です。詳細は、著書を参考にしていただきたいと思いますが、私が言いたいことは、教会を生み出していくことがキリストの宣教戦略であるならば、それを実践するアイデアは必ず与えられるということです。大切なのは、神のみこころは何かということです。

もう一度パウロの宣教戦略に倣い、どこででも福音を宣べ伝え、そこに新しい教会を建て上げ、教会ごとに長老たちを任命することを通して、世界規模で教会が増殖していくことを祈り求めていきましょう。今日本に必要なのは、このパイオニア精神なのではないでしょうか。

（大田原キリスト教会　牧師）

十一月二二日から二四日まで山崎製パン総合クリエーションセンターにて開催された第二十二回ＫＤＫセミナー。テーマは「まだあきらめない日本の宣教―実を結ぶ教会形成」。二十一名が参加しました。二～三面で報告します。

参加者の声

日本同盟基督教団　京都めぐみ教会
牧師　加藤　秀典

当初、「開拓」ということを念頭に思うときに、セミナー参加には躊躇があるのが私の心情でした。設立三十五周年を迎えようとしている教会に仕えて九年、私自身今もってどこかに開拓を考えているわけではなかったからです。しかしながら、ＫＤＫ委員のお一人より、参加を勧められ、現状の牧会に疑問や課題をおぼえて、参加するに至ったことです。

結果として言えることは、主の恵みをさまざまな形で受けた実りあるセミナーとなったということ。開会の挨拶では、会長の中島秀一先生が、「日本のキリスト教会はまだ途上。その点でいえば全ての教会が開拓教会だ」と語ってくださいました。そのお言葉に励ましを受け、講演にまたその合間にも委員の先生方を捕まえては、積極的にお話を伺ったことでした。

多くいただいた恵みの中から、この紙面でお分ちしたい事柄は、教会とは何か、という本質について、良く教えていただいたということです。なぜ、開拓するのか。どのような教会を形成するのか。そのすべてにおいて、そこに「主」が意識されるべきであること。教会とは主のものである。そのようなことはある種当たり前と言えますが、自身の牧会にどこか行き詰まりをおぼえていた私にとっては、「そうだよな」と納得させられたことでした。いつのまにか、伝道も牧会も、「どうすればうまくいくのか」という方法論に終始し、その結果、やりがいとか目に見える成果が気になるようになっていました。

そうする中で、この働きについての喜びも薄れていっていたことです。しかし、主が人を救いに導かれ、また教会を建てあげるということ。そして、その教会は主のものであること。そこに改めて気付かされるとき、今現在、遣わされた教会が、主のみわざそのものであることを思わされました。そして、そのことのゆえに、与えられた教会の関係を喜んだことでした。セミナーから帰ってきて一〇日ほどが経ちました。気持ちを新たに、与えられた群れの一人一人を愛し、彼らと共に主の教会を建てあげることを楽しんでやっていきたいと思います。

日本バプテスト教会連合　玉川キリスト教会
神学生　田中　甲子郎

開拓伝道セミナーに参加することができ感謝いたします。日本全国からいらっしゃった伝道に情熱を燃やす方々にお会いでき、また神様が与えてくださったビジョンを分かち合うことができたとこに感謝でした。神様が与えてくださる御国の同労者はなんと素晴らしいのだろうと思わされました。

今回、私が最も教えられたことは、聖書が伝道について教えていることは、決して効率主義ではないということ、主の召しに忠実に伝道と教会形成に励むことであるということ、そして、実を結ばせてくださるのは神様であるということです。

講義や分かち合いの時間は美談や成功談で溢れてはいませんでした。開拓伝道の難しさを語れば、目に見えることが起こるのにあまりにも時間がかかり、諦める心も生まれてしまいがちです。しかし、結局のところ、開拓伝道者はその召しに忠実であって、決して誤りのない聖書のみことばを確信し、どこまでも神様に信頼するということに、伝道者がどれだけ自分を置いていくことができるかということにかかっているのだと学びました。言うは易く、行うは難しでありますが、開拓伝道のどの時期にあってもそれを一貫して続けて来られた先生のお話を伺い、成長させてくださる神様に期待をして働きをなさっておられたことに励まされました。

私自身、大学生の時に開拓後間もない教会で信仰を持ち、そして洗礼を受けました。そして現在、神学校での学びの時を許されています。在学中には、聖書が何を言っていて、どのように聖書を読んでいけばよいかを習得したいと願っています。卒業後、どのような導きがあるかはまだ分かりませんが、教会開拓も視野に入れた働きを願っています。今回のセミナーはその意味でも、神様が伝道について何を望んでおられるのか、私たちにどんな姿であってほしくて、何をすることを願われているのかを深く考えることができるとてもよい機会でした。神様に感謝いたします。